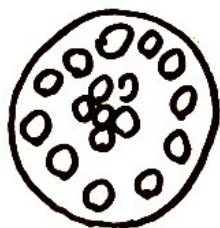


とよ・たち美肌通信

12月号 vol.137



しずく



December



今日号のとみひろ美肌通信の表紙は

大きな大きなクリスマスツリーに、

たくさんのかざりと一番上にはかがやく星が

あって楽しいクリスマスになる絵ぞり♡

ゆきだるまさんモ暖かそうなマフラーが

ととも似合っていますね!!

ダンスとスイミングが好きで、

とひばりやなわとびが得意な女の子が

描いてくださいました。

ありがとうございます。

院長はじめスタッフ一同

心より感謝いたします



禪に関する著書を初めて英語で著した仏教学者である鈴木大拙翁。「人生はどう論じ様とも、結局の所苦しい闘争である。だが苦めば苦しむ程、あなたの人格は深くなりそして人格の深まりとともに、あなたはより深く人生の秘密を読みとる様になる」と氏は説く。

手前味噌の様だが、祖父も私が幼い頃よくこの話をしてくれたのを覚えている。「人生はラクダが金針の穴を通るより難しい」。大人になり、恐らくこの文言はカトリック信者であった祖父が新約聖書（マタイ福音；19章 16～26節）に書かれている、「金持ちが天国に行くのはラクダが金針の穴を通るより難しい」という所から、自分の人生観と照らし合わせて得た教訓であったのだろうと推察する。祖父もまた彼の同世代がそうであった様に、戦中戦後の日本の混乱期を乗り越えた大和男児の一人であったのだろうと敬仰の念を抱く。いずれにせよ古今東西の多くの先達者が苦難から学び、そしてそれを良い教師としていたと思う。その言葉を

以下に紹介したい。

- いかなる孝教育も 逆境から学べるものには敵わない（イギリス首相ベンジャミン・デイズレーリ）。
- 人間は苦悩によって練られてゆくのであり、肉体的にも精神的にも人間が成長していくために苦悩は欠くことのできない条件であります（哲学者 安岡正篤）。
- 逆境は神の^{おんちから}恩寵的試錬なり（哲学者 森信三）。^{おんちから}恩寵とは神が人間に与える恵みのこと。
- 成長するということは苦難が喜びであると思えるようになることです。苦難を越える、それが喜びです（医学者 京都大学16代総長 平澤 興）。
- 逆境は常にいつでも自分の敵ではない。時には恩師となつて人生に尊いものを教えてくれることがある。不幸、病気、逆境は、大成する人格を育てる落葉である（政治家 常岡 一郎）。

2020年5月号 vol.118のとよ・たちに、「太極図」を解説したが、その根幹の教えは次の通りである。

「陰を極めれば陽に極まり、陽を極めれば陰に極まる。陰陽対極にある2つの事柄、本質は一つである」。

表現の方法は異なるが、要諦は同一であると考えられる。

院長、持